

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする <ul style="list-style-type: none"> 当センターのレジデント修了者 外科専門医（関連するサブスペシャリティ領域専門医）を取得もしくはその能力を有する者 一般的な消化器外科医としての能力を有し、さらに大腸外科医としての技能習得を目指す者 上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 専門医取得：日本内視鏡外科学会技術認定医取得、大腸肛門病学会専門医取得 研究：臨床研究の立案やプロトコール作成に携わり、その研究結果を国内・国際学会で発表することや、Peer review journal での論文作成が可能
	研修内容	大腸外科で2年間研修を行う
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 消化器外科医として一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです 手術技術に関しては、研修2年間で日本内視鏡外科学会技術認定医取得に必要な技術の修得が可能。さらには難易度の高い直腸がん手術の技術修得を目指します 外来診療にも従事し、大腸外科専門医として大腸がんの診断・治療の決定ができ、さらに他人への技術指導が可能な人材育成を目指します 臨床研究や医療機器開発など幅広い経験をつむことが可能で、国際学会・Peer review journal 論文執筆等の機会も十分確保されています

レジデント 3年コース・ 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象としています <ul style="list-style-type: none"> 採用時に医師免許取得後3年目以降の者 外科専門医（基本領域専門医）または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 専門医取得：日本内視鏡外科学会技術認定医取得を目指す 研究：臨床研究の立案やプロトコール作成に携わり、その研究結果を国内・国際学会で発表することや、Peer review journal での論文作成が可能
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 大腸外科を通算1年～約2年半の期間在籍し、それ以外の期間は自由選択 必須ローテーションとして麻酔科、病理診断科の研修を行います
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 大腸外科医として必要な手術技術や解剖知識の取得のみならず、臨床研究や医療機器開発など幅広い経験をつむことが可能です 手術技術に関しては、研修期間で日本内視鏡外科学会技術認定医の取得に必要な技術を修得することが可能であり、さらに難易度の高い直腸がん手術の技術修得も目指します 臨床研究では、国際学会・Peer review journal 論文執筆等の機会も十分確保されています

レジデント 短期コース	対象者	以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としています <ul style="list-style-type: none"> 原則として基本領域専門医取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする 一般的な消化器外科医としての能力を有し、さらに大腸外科医としての技能習得を目指す者
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 大腸外科医として大腸がんの診断・治療の決定ができ、大腸がん手術の技術獲得を目指す 研究：期間や希望に応じて臨床研究に携わることは可能です
	研修内容	大腸外科で最短3ヶ月以上、最長2年未満の研修が可能です ※原則として3ヶ月単位とする
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 消化器外科医として一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象としたコースです 手術技術に関しては、研修期間で日本内視鏡外科学会技術認定医取得に必要とされる技術や、より難易度の高い直腸がん手術の技術取得を目指します

連携大学院 コース (4～5年コ ース)	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	<ul style="list-style-type: none"> 専門医取得：日本内視鏡外科学会技術認定医取得、大腸肛門病学会専門医取得を目指す 学位取得：社会人大学院制度（順天堂大、慶應大、慈恵医大、長崎大）にて学位を取得する 研究：臨床研究の立案やプロトコール作成に携わり、その研究結果を国内・国際学会で発表することや、Peer review journal での論文作成が可能
	研修内容	3年もしくは2年のレジデントコースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです ※がん専門修練医への採用には、再度選考試験があります ※前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます ※後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます <ul style="list-style-type: none"> 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から臨床研究の指導を受けられます 必須ローテーションとして麻酔科、病理診断科の研修を行います
	研修の特色	<ul style="list-style-type: none"> 大腸外科医として必要な手術技術や解剖知識の取得のみならず、臨床研究や医療機器開発など幅広い診療経験をつむことが可能です 手術技術に関しては、研修3年間で日本内視鏡外科学会技術認定医取得に必要な技術修得が可能であり、さらに難易度の高い直腸がん手術の技術修得も目指します 臨床研究では、研究に基づく国際学会・Peer review journal 論文執筆等の機会もあり、学位取得が可能です

専攻医 コース	対象者	外科学会外科専門医取得のため研修中の専攻医を対象としたコースです 下記の全ての条件を満たした医師が対象となります <ul style="list-style-type: none"> 採用時に医師免許取得後3年目以降 日本外科学会専門医制度の連携施設として国立がん研究センター東病院を選択した専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療を経験し、手術手技の基本操作を修練することを目標としています
	研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 国立がん研究センター東病院に、3ヶ月単位、最長2年間在籍します 大腸外科、食道外科、胃外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、麻酔科など各科最短3ヶ月単位でローテーション可能です
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です